

# Sakurabito さくらびと

佐野日本大学高等学校 同窓会 桜友会報  
佐野日本大学中等教育学校

桜友会が発行する「さくらびと」は同窓生をつなく、コミュニケーション誌です。

## Sakura Pride

受け継がれるもの

おう えん  
**桜焔** - 桜魂継承 -

| **仕事 × 情熱** | Sakura Pride Special  
SAKURABITO WORK STYLE

篠崎建設株式会社

**金子 哲之** Noriyuki Kaneko

**NEXT CHALLENGE**

Yuriko Saito / Kazuya Maeda

**活躍する先生の話** Takashi Tanno

桜友会 Message & 活動報告 & School Info.

SANICHI NOSTALGIC PHOTO CLUB



DARI・K

<ダリK>

「フルーツ」としてのカカオ。  
そのほんとうの酸味と香ばしさに  
生産者と職人の想いを込めて。

Dari K 株式会社 代表取締役

**吉野 慶一**

Keiichi Yoshino

Dari K 最新作  
カカオニブチョコ

¥1,000 (税抜)  
チョコ・コーティングされた  
自家焙煎カカオの

Dari K

はちみつカカオ

2015  
Vol.03



野球やサッカーなど運動部の試合会場ではもちろん、校内での壮行会や文化祭などでも、代々生徒の士気を高め続けてきた。佐日の応援。校歌、応援歌、オリジナル曲「マグナ」という名前も知らなくてもおそらく卒業生なら聞けば思い出し自然に身体が動く。応援にはそんなタイムマシンのような力が潜んでいる。

古くは「応援団」としての組織があり、羽織袴の男子団員達がリード(振り)の型を継承していたが、現在、応援組織は生徒会の応援委員会へ有志が集まる形で活動している。練習は月、水、金曜日の放課後週3回。団員12名のうち女子は4名。西山さんと三浦さんは、女子の幹部を務めている。「応援委員会は今こそ女子が増えました。2、3年前まで男子がほとんどだったんです。私は、一つ上の女子の先輩に憧れて参加を決めました。動きにキレがあって、かつこよかったんです。先輩を目標に、沢山練習しました(三浦さん)」。最初に先輩たちに教えられたことは、基礎基本の動きだということ。以前はリーダーとして立つ生徒は限られていて、一人で2、3曲やるのが普通だったが、ここ最近は、話し合っって持ち歌を振り

分け、場合によっては女子もリーダーとして前へ出て応援を引く張ることもある。時代の流れと共に、応援の場も男女が協力しあって士気を高める傾向にあるようだ。普通段の生活の中で当たり前のことをきちんとできるように、ということも教えられました。たとえば靴を揃えたり、整理整頓をしたりです。そういうことが、応援の動きの美しさにあらわれるんだと思います(西山さん)。

昨年春の選抜では初の4強入りを果たす快挙を成し遂げた硬式野球部と共に、応援でも注目を集めた。大会後に贈られる「応援団賞」で優秀賞を受賞した。二人にとってもこの選抜での応援には特別な思いがあり、鮮烈な記憶となっているとか。卒業生がわざわざ応援練習を見にきて指導してくれたり、甲子園まで足を運んでくれたりした。甲子園のスタンドに桜の花を咲かせたあのピンク色のTシャツは、選抜出場のときに新調したという。「とにかく甲子園は本当にインパクトが強かったです。ものすごくテンションが上がりました。めつたに行けないところだ

# 進化しながらも変わらぬもの

し、地方大会などの球場よりずっと人が多かったです。さらに一緒に応援してくれる生徒も多かった。いつも以上にがんばらないと、っていう気持ちが強くなりました(西山さん)。長い歴史の中で積み重ねられたSakura Prideがいつきに花を咲かせ実を結んだのかもしれない。「本校は部活動が強いので応援しがいがあります。応援で疲れたとしても選手たちのがんばっている姿を見るとまたがんばれる。私たちは応援をしているけれど、逆に選手たちに励ましてもらっている、と思えることがあります(三浦さん)」。二人はそれを「見えない絆」という言葉で表現してくれた。選手と応援の間にあるその絆はそのまますべての卒業生すべてに燃える桜の焔は、これからも受け継がれていく。



写真提供：和田栄一さん



写真提供：新井園博さん

上：第48回全国高等学校野球選手権大会 栃木予選 対小山高校戦

右：第69回全国高等学校野球選手権 栃木大会 対大田原高校戦

下：第86回選抜高校野球大会



写真提供：神永写真館様

夕闇せまるグラウンドの片隅で  
桜の魂を継承する焔(ほのお)たちが声の限りに叫ぶ。  
母校のため、仲間のため、ひたむきに叫ぶ。  
豪胆な気質を受け継ぎつつ、しなやかに進化するその姿に  
"Sakura Pride"の真髄を見た。

# 桜焔

桜魂継承



Mami Miura



Eri Nishiyama



篠崎建設株式会社 建築工事部 部長



[1986年度高等学校卒 21期生]

金子 哲之

Noriyuki Kaneko

PROFILE

1968年生、佐野市出身。日本大学生産工学部卒。一級建築施工管理技士。都内での建設会社勤務を経て、市内大橋町の篠崎建設株式会社に入社。

新1号棟建設の  
現場代理人を  
支えた

Sakura Pride

TEXT:KEIKO TOGAMI PHOTO:AKIKO OYA



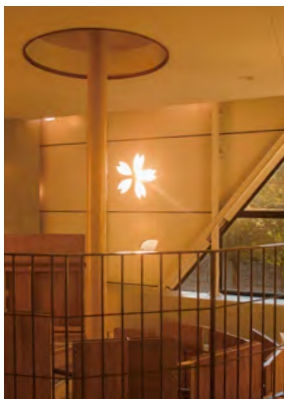
仕事で母校に  
戻ってこられた  
幸せと誇り

昨年10月、教室、職員室、保健室などを備えた待望の新1号棟が本館の西側に完成した。工事関係業者は約20社ほど。多くの卒業生がこの建設に携わったというが、「現場代理人」といわれる建設工事をする上での総括的な管理：つまり現場の長を務めたのが、卒業生金子哲之さん。

この校舎の一番の特徴は『木』のぬくもりを全面に打ち出しているところ。床が全面フローリングというのは、全国的に見ても学校では数が少ないものだと思います。

温かみ重視の内観とは逆に、外観では『コンクリート打ちっぱなし』のモダンな意匠が目を引き。「打ちっぱなし」というのは塗装などの仕上げをせずに素地のまま見せるものですから、コンクリートの品質や仕上がりについては試行錯誤しましたね。

また、中央階段の窓にあしらわれた校型のスチンドグラスは…



「西日が差したとき、壁面や階段にピンク色の桜の花びらが映し出されることが計算されているんです」

この仕事で母校へ一定期間「通う」ことになった金子さん。母校の姿を見て、「自分たちの頃は女子クラスも少しはありました。が、ほぼ男子校状態。今は女子生徒も増えてかなりイメージが変わりましたよね」と感慨深く話す。また、「私の場合、同級生は群馬

の出身者が多くて年一回やる忘年会では前橋に行ったり、佐野に来てもらったり：（笑）」と広範囲から生徒が通ってくる私立学校ならではのエピソードも。理数系の教科が得意だったのと、もの造りに関わりたい、という思いから千葉・習志野にある日本大学生産工学部に進み、その後建築関係の仕事に就いた。「仕事で母校に戻ってこれたことに何かの縁を感じます。工期がタイトだったり、こだわりの意匠があつたりで心配事も山積みでしたが、今後後輩たちが使い続ける校舎という建築物に関われたことは、私の仕事人生の中でも大きな誇りとなりました。浮き沈みの激しい建設業界ですが、発注者が求める以上のソリューションを提供し、発注者の立場に立つて設計から施工管理を含む総合的な建設管理が出来たらと思っています。今後も母校のお手伝いしていきます」と語る。さくらびとの今後の活躍が楽しみです。



木のぬくもりに包まれた教室

1号棟 (新校舎) 建築概要

建築名称	佐野日本大学高等学校1号棟
設計・管理	株式会社安藤設計
施工	篠崎建設株式会社
工期	平成25年10月15日(着工) 平成26年10月15日(竣工)
構造	鉄筋コンクリート造4階建て
延べ床面積	5,719.72㎡ (1階 1,508.61㎡/2階 1,493.49㎡ 3階 1,464.97㎡/4階 1,252.65㎡)
設備	教室27室/職員室/保健室/入試室 進路指導室/セミナー室3室 他



校舎西側



校舎東側



“自主創造”のSakura Pride

## 「0から1を生み出すのはやるかやらないか」



「カカオを通じて世界を変える」をコンセプトに、インドネシアの最高品質カカオ豆を全て自社で調達し、チョコレートを製造している『Dari K』。4年前にオープンした1号店である京都の本店を皮切りに、現在、全国の百貨店で引つ張りだこの大人気チョココレート店として、その名を轟かせている。

華々しいエリート街道を離れ、畑違いと思われる分野でこの人気店を起業した吉野慶一さん。彼が歩んできた道のりは、新しい形でのフェアトレードを実現した『Dari K』の現在や、そこから派生し始めているカカオを通じた様々なプロジェクトの未来へ、ひとつの無駄もなく通じているように見える。

本店のある京都に赴き話を聞いたのは、彼の高校時代の恩師・渡辺明男先生（現・中等教育学校校長代理）。久々の再会を喜び、話は尽きない。まずはいきなり核心を突くようところからスタートした。



Akio Watanabe



Keiichi Yoshino

渡辺先生（以降渡辺）：構想から半年で起業したって聞いたけど、とにかく動きが早いよね。豆が来て一か月後にはオープンした。

吉野さん（以降吉野）：物事を進める上で、本質がどうかを見極めるということが重要だと思っただけです。本質は単純なところにあるはずなのに、みんなそうじゃないところをつまづいているんじゃないかなと感じるんです。僕はそこ（本質）だけに集中していることがスピードにつながっているのかな。渡辺先生がよくおっしゃっていた「やるかやらないか」ですよ（笑）。

渡辺：やるかやらないか言ってた言ってた（笑）。

吉野：物事には必ず理由がある。僕は毎回単純にその理由を探しているだけです。でも探すときはありとあらゆる手段を尽くす。徹底的にやるんです。例えば、日本でカカオというとみんなガーナという国を思い浮かべると思いますが、でも、世界のカカオの生産量を国別で見ると、1位がグアテマラで2位がインドネシア、3位と4位はほぼ同量なんです。2位と3位はほぼ同量なんです。2位がインドネシア、日本でも知られているガーナは3位なんです。でも日本でカカオといえばガーナ産のものが圧倒的に有名で、輸入しているカカオはほとんどガーナ産です。これを見て、なんでコートジボワールじゃなくてガーナなんだろう、なんでガーナとインドネシアが同じ生産量なのに、インドネシアじゃないんだろう。と疑問を持ちました。そういう時、僕は市販のチョコのパッケージにある「お気付きの点は…」



Dari K

【1998年度高等学校卒 33期生】

## 吉野 慶一

Dari K 株式会社 代表取締役

### Profile

1979年生、足利市出身。佐野日大中学校、佐野日大高等学校、慶應義塾大学経済学部に進学。在学中にシンガポール国立大へ留学し、学部卒業後は京都大学大学院でアジア社会経済の研究に従事、その業績が認められ飛び級で早期卒業。その後、イギリスに渡りオックスフォード大学の大学院で修士課程を終了。モルガン・スタンレー証券やヘッジファンドの金融アナリストを経て、2011年Dari K株式会社を設立。

のお客様相談室の番号に電話をかけたチャットです（笑）。でも先方も分からなくて疑問は解決しない…そうなたら次は自分で仮説を立ててみるんです。ガーナで作っている豆は他とは種類が違ったり品質がいいのか？という具合に。その仮説をもって自分で調べてみたところ、実は豆自体は同じという事が分かりました。では何が違うかというところ、豆を「発酵」しているかどうかの違いだったんです。そこが味の決定的な差になってしまっただけに、インドネシア産は日本では使われていなかったということが分かりました。その後は独学で発酵の仕方を調べて、インドネシアに飛び、ホームステイで1カ月滞在。インドネシア語も話せないのに辞書を片手に農家の人と一緒に発酵作業を勉強して、出荷できるところまでこぎつけました。実はこれはとてもシンプルなお話の積み重ねなんですけど、やるかやらないかですよ（笑）。

**0から1を作るときにの思考回路**  
シンプルに本質を探ること

渡辺：チョココレート店を始めるきっかけって、何だったの？

吉野：元々はチョココレートのお店を開業するつもりはなかったんです。（笑）インドネシアでいい豆が出来るようになったので、メーカーに卸そうと思っていました。でもメーカーではインドネシアの豆は扱ってくれませんでした。そんな中、船会社から「吉野さん、インドネシアの豆を積んだコンテナが港に到着したんだけどどうしますか」という連絡が来てしまい、「じゃ、自分でチョココレート作っちゃえ」と思い、始めました。

渡辺：京都に店を出したのには何か理由があるの？

吉野：最初は東京でお店を出そうと思っていました。でも、なかなかいい物件が見つからなかったんです。たまたま京都大学の恩師に会いに京都を訪れたとき、今の物件を見つけたんです。もともとパン屋さんだった物件なので、これなら設備投資がからないな、と思い決めました。

渡辺：チョココレート作りでの苦労は？

吉野：僕はパティシエではないので、チョココレート作りをしたことがありませんでした。作り方を調べてみると日本のチョココレート作りってどんな本を見て、クーベルチュールといわれる製菓用チョココレートを溶かすところからしか書いてないんです。当時はどのパティスリーも溶かすところからチョコ作りしてませんでした。でもうちは豆からです。誰もノウハウを持っていないので、開店のために集まってくれたパティシエと一緒に試行錯誤。何度も理科の実験のように焙煎や粉砕などを繰り返しやっと納得できるチョココレートを作成できました。でも最初にそれらの機械を揃えようとメーカーに行ったら5億円かかる、って言われたんです。





京都三条通り東西約1キロ連なる三条会商店街、スーパー西友さんの向かいにあるDari Kの本店。“インドネシア産”高品質のカカオを、カカオ豆の焙煎から全てを手作りしているDari Kのチョコレート。お近くにお越しの際は、是非訪れてみてください。遠方の方はオンラインショップからも購入できます。

Sakurabito吉野さんが誕生させた“カカオそのものの味わい”をご賞味あれ!

## Shop Information

Dari K (ダリケー)

<http://www.dari-k.com>

### 本店

京都府京都市中京区今新在家西町22-1F  
TEL.075-803-6456  
営業時間/10:00~19:00  
定休日/不定休

### 祇園あきしの店

京都市東山区清井町492-22  
営業時間/11:00~18:00  
定休日/不定休

### JR大阪三越伊勢丹店

大阪市北区梅田3-1-3 地下2階(洋菓子)  
営業時間/10:00~20:30  
定休日/不定休

オンラインショップ  
<http://dari-k.shop-pro.jp>



**渡辺: どうやって解決したの?**  
吉野: あきらめませんでした。メーカーにチョココレクトを作る機械って何が必要なんですか?と質問したら、焙煎機と粉砕機、それに練る機械が必要という事が分かったんです。そこで、焙煎機は専用のものじゃなくてもいいんじゃない?と考えたんです。コーヒージャケット?粉砕機は大豆とか蕎麦を砕く機械があるはずだよな、とか。全部海外の製品なんですけど、アメリカやドイツの機械メーカーにメールして、大豆の大きさはこれですがカカオ豆はこれなので7倍にして...と特注で作ってもらったら、練る機械も含め全部揃えても50万円くらいで出来ちゃったんです。これも先生のDNAじゃありませんか?「やれ!」っていう(笑)。会社員のときは組織が出来上がっているんで、1を10にする、1を100にするのが仕事でした。起業した今は0から1を作らなければなりません。まさに佐野曰大校訓の「自主創造」ですよ。日本人は、1から100作るの得意としてきたけど、0から1を創造するというのはまだまだ苦手ですよ。今、日本には豆からチョコを作っているお店は5軒くらいあるんですが、皆うちの店を参考にして設備を入れてるようですよ。0であったところにも1は作れるんですよ。

**まずは相手の立場になってものを考える  
基本中の基本だけど実行すれば成果に**

**渡辺: 今やどの百貨店でも引つ張りだぞだと聞いたけど最初の営業は大変だったんじゃない?**  
吉野: 百貨店に出店するって...とても難しいんですよ。どこのお店も百貨店に入りたくて思っているから。でも4月中旬にチョコが出来上がって2週間後の4月末には営業に行つて最初の成約が取れましたよ。



新商品「生チョコクリーム3個セット」を恩師に紹介する吉野さん。アイデアあふれる商品に、渡辺中等教育学校校長代理も感心していた。

**渡辺: どうやって取つたの?**  
吉野: 百貨店に出店するには、その百貨店のバイヤーさんに認めてもらわなければならぬんです。百貨店には出店したお店の売上の何割かが手数料として収入になるの、確実に売上げられるお店を入れたい。そうなる。他の百貨店で実績を出しているお店を入れればある程度の利益を見込めます。そうするとバイヤーさんは街に出て美味しいものを探すのではなく、他の百貨店に行つて自分のところに入っていない人気のお店を探さなければなりません。結果、今の百貨店はどこへ行つても同じようなお店が並ぶデパ地下になっています。しかし、本当はバイヤーさんは自分の足で新しいお店を開拓し、他の百貨店にはないお店を出店させたいと必ず思っています。

るはずだと思つたんです。そこで最初に営業に行つた百貨店で「バイヤーさんの本当の仕事は無名でも本当に美味いものを紹介する事なんじゃないですか?」と聞きました。もし私の店に賭けていただけなら、一年間は他の百貨店には出店しません。」と断言したら...決まりました。こういうことは、教科書にもビジネスの本にも載っていない。でも相手の立場になつてものを考えるというところは、子どもの頃から基本中の基本だと教えられました。それが出来ていけば素外大人になつてもビジネスの場面で役に立つんですよ。学力とかは関係ないと感じています。

**渡辺: これからの夢は?**  
吉野: 次の目標はマイナスから1を創り出すこと。カカオ豆の殻は「ゴミ」として畑に山積みされています。いわゆる産廃になります。処分には費用もかかりますし、燃やせば二酸化炭素で空気も汚しますよ。今のところ廃棄しているんですが、こういうマイナスのものをプラスにできないか?という取り組みを始めています。現在、カカオの殻を分析センターに持ち込んで成分を詳細に調査中です。この殻からメタンガスを創出しようと考えています。これが実現すれば、インドネシアだけではなく、カカオの生産地ならどこでも応用が可能となります。今後はマイナスからの1を生み出す挑戦を続けていくつもりです。

吉野さんの今後の活動のひとつとして、現役の生徒達が参加できる「海外での体験型の研修」を企画している。自身が中学校、高校の6年間で培い、社会で大きく飛躍する原動力となっている「Sakura Prides」は、着実に後輩たちに受け継がれていくだろう。



取材当日は浦田理事長(左から2番目)と長谷川事務局長(左から1番目)も同行していただきました。

## あの日から変わらぬ 絶大な信頼関係

「高校時代、僕は優等生タイプではなかった。何度か良くない事をしてしまったとき、先生には厳しく怒られることを覚悟していました。そんなとき、渡辺先生は「最近そういうことが多いけど、何か理由があるの?何か変わったの?」と、聞いてくれました。当時僕はストレスをためていた時期で、迷いましたが正直に話しました。先生はただ聞いて共感してくださいました。そのときに絶大な信頼が生まれました。この先生は自分の事を分かってくれようとしている、と。先生と出会うていながら、他の学校を目指していたかもしれないし、こんなに頑張ることができたのかも分からない。そんな渡辺先生が今、校長代理というのが...とても嬉しいですね(吉野さん談)



## 競泳生活としても忘れられない6年間 次の目標はやはりオリンピック!

一昨年、インターハイの背泳ぎ女子200mで準優勝の快挙。昨年は3位と順位を落としたが、国体400mメドレーレーでは栃木女子を優勝に導き、10月のワールドカップでは8位(同時開催・日本選手権では2位)の栄冠を勝ちとった。

水泳を始めたのは1歳のベビースイミング教室からだった。地元・足利のスクールに小5まで通い、その後、館林のスクールに移る。小5~中1の3年間で、徹底的に基礎からフォームの洗い直しをし、タイムが一旦停滞・下降する試練の3年間を耐えた。

中等教育学校に入学したのは、ちょうどそんな自身の水泳スタイルの変換期。当然、様々な葛藤の中にいた。ところが中2~3年のあたりから、成績は徐々に上昇。基礎固めの3年間がついに花開き、4~6年

次は様々な大会で活躍することとなる。「私にとってこの6年間は、本当に中身の濃いものでした。自分の泳ぎの方向性を決める時期だったこともありですが、同じ学校、同じ友達と6年間を過ごせたことが、自分にとって大きな励みとなりました」

この春からの進学先は筑波大学体育専門学群。スイミングスクールのコーチの元を離れ、筑波大の先生やチームメイト達との選手生活が新たに始まる。4年生のとき、初めてJOCジュニアオリンピックを経験したが、今後はシニアの大会への出場も見据える。とにかくひとつでも多くの国際大会で結果を出すことが当面の目標と話してくれた。

オリンピックの舞台に向け、彼女の準備は着々と進んでいる。



YURIKO SAITO

齋藤 ゆり子 さん [2014年度  
中等教育学校卒 2期生]

1996年生、栃木県足利市出身。競泳・背泳ぎ200mで数々の公式試合で入賞する。この春から筑波大学体育専門学群に進学。

# Sakurabito NEXT

# CHALLENGE

## プレッシャーをモチベーションに!! 監督としてウーヴァFCでの未来とは

高校3年間、校内で一番「居た」思い出の場所は「部室!」。朝、学校に着くとまず部室に行き一息ついてから教室へ行く。放課後にまた部室へ戻りそれから練習へ。

サッカーを始めた幼い頃、全国高校サッカー選手権大会で躍動する桜色のユニフォームを見て、いつか必ず自分も着ると心に決めた。

佐野日大は両親の母校、地元佐野市の出身とあって家の近くを毎日生徒が通って行く。佐野日大には馴染みがある。高校進学に迷いはなかった。

高校時代はJリーグに入団することを豪語していた。意識していたわけではないが常に自分にプレッシャーを与えながら、サッカーに没頭。その甲斐あって高校3年次にはU-18日本代表に選出され、目標であったJリーグの強豪FC東京への入団を決めた。まさに有言実行だ。ただ、全国大会でしか着ることができないあの憧れの「桜色のユニフォーム」に一度も袖をおしていないことが、高校時代唯一の心残り。

今も母校の全国大会出場が決まったときは誇らしく思う反面「まだ悔しい」と笑う。

指導者の立場となった今「自分達の代はよく言えば個性的、悪く言えばまとまりがなかった。後輩たちは良くまとまって全国大会に出場しました。自分達が後輩たちにとって、反面教師になっていたとしたら…、サッカー部の伝統に少しは何か残せたのかもしれない」と振り返る。

現在所属する栃木ウーヴァFCでは2013年に選手を引退、翌年からヘッドコーチを務め、2015年シーズンから監督として指揮を執る「コーチ時代は、本当の意味でのプレッシャーが無かったかもしれません。今年、監督に就任して重苦しい立場になりましたが、この切羽詰まった感じがむしろ気持ちがいいというか、やっていて楽しいんです」目標はウーヴァFCの選手達を自身が所属していたFC東京と同じJリーグの舞台に立たせると。彼の次の挑戦はすでに始まっている。

前田さん率いる  
栃木ウーヴァFCを  
応援しよう!

詳細は  
HPを  
チェック

栃木ウーヴァ 検索 [www.tochigi-uva.com](http://www.tochigi-uva.com)



KAZUYA MAEDA

前田 和也 さん [2001年度  
高等学校卒 36期生]

1984年生、佐野市出身。高校3年次にU-18日本代表に選出される。2002年、FC東京に入団。2008年より栃木ウーヴァFCに所属し2013年まで選手として活躍。2015年シーズンから監督に就任。



イギリス研修旅行

佐野日大中等教育学校  
国際交流部 部長  
丹野 隆史 先生

1981年生、宮城県仙台市出身。関西学院大学大学院卒業。英語教諭。中等教育2年生のクラス担任で学年主任を務める。

「これは、学校という教育機関に突き付けられた挑戦に他ならない。もはや、英語だけがという既成概念は通じないのです」

栃木県や佐野市から世界に発信できるものは何か、東京大阪などの大都市圏からだけでなく地方からも直接世界にアクセスしていきけるものは何か。仮に佐野の農産物を通して東南アジアの国々と文化交流はできないのか。社会、理科、家庭科、様々な見地からグローバルリーダー育成へ向けたプロジェクト開発に邁進中である。

「これは、学校という教育機関に突き付けられた挑戦に他ならない。もはや、英語だけがという既成概念は通じないのです」

栃木県や佐野市から世界に発信できるものは何か、東京大阪などの大都市圏からだけでなく地方からも直接世界にアクセスしていきけるものは何か。仮に佐野の農産物を通して東南アジアの国々と文化交流はできないのか。社会、理科、家庭科、様々な見地からグローバルリーダー育成へ向けたプロジェクト開発に邁進中である。

Teacher's Voice Takashi Tanno

## 活躍する 先生の話。

佐日から世界へ!

中 学生の頃から英語や英語圏の文化に強い興味を持っていたという丹野先生。高校の時に地元宮城県の交換留学派遣団の一員に選ばれた。何にも代えがたい経験を提供してくれた地元への感謝、そして同じ思いを抱く子どもたちに恩返しをしたい、という強い思いが英語教師としての核となっている。

現在、英語科の使命のひとつには生徒が希望する進路を実現できるような、大学受験に对应した英語教育を実践することが軸となっている。中高一貫6年間の中等教育学校のカリキュラムでは、教科書も特別なものを使用しており、通常の約1.5倍のスピードで進む。中等5年間で学ぶ事をすべて終え、6年では演習中心となるため充実した受験対策をとれるという。

そして二つ目の使命は、将来を見据えた英語教育というもの。日進月歩のスピードで変化する、英語教育の在り方に对应しなければならぬ。

20年くらい前までは、英語を話せば「国際人」という風潮が日本にはありませんでした。でもこれからの子どもたちが生きる場所は世界なんです。英語が目的ではなく、英語を使って世界を見られるのかということが問われているのです。文科省は昨年からはSGH(スーパーグローバルハイスクール)という、全世界に通用するリーダーを育成するための施策を打ち出した。





ブレハブ校舎から始まった母校は、学園創立50周年を迎え、去る平成26年10月18日に創立50周年記念式典が盛大に行われました。次の50年「創立100周年」へ向けて新しい歩みが始まったところでございます。誠に喜ばしく50年という長い歴史で培われたその重厚な伝統を「誇り」に思っています。今後のさらなる飛躍をご祈念いたします。

同窓会も設立50周年を2年後に控え、記念となる企画の準備を進めております。これを期にさらに「絆」を深め、多くのおみなさまとご祝儀したいと存じますのでご協力のほどよろしくお願い致します。

さて、同窓会には会員相互の親睦、向上を計り、母校の発展に寄与することを目的としています。今年も会員と親睦を図るために下記の通り年間行事を予定しておりますので、多くの会員の皆様に参加していただきますようお願い申し上げます。是非ともより多くの卒業生をお誘いあわせいただき、年代を超えた社交の場としてご利用いただけたら幸いです。

その他の事業として、支部の活性化も積極的に行っております。昨年度は太田 足利 栃木の3支部を新たに発足し11支部となりました。各支部とも地域ボランティア活動やレクリエーションなど様々な趣向を凝らし、家族で参加できるイベントも企画しておりますので支部活動にも是非とも足をお運びください。最後になりますが、本年も「校の絆」をさらに広げられますよう邁進いたしますので各行事へのご集結をごお願いいたします。挨拶に代えさせていただきます。

高等学校同窓会 会長 和田 栄一

## 中等教育学校 同窓会長紹介

中等教育学校の同窓会長が、黒岩祐哉さんに決まりました。黒岩さんの今後の活躍にご期待ください。



## 桜友会 活動報告

### 同窓会チャリティーゴルフコンペが開催されました。



平成26年5月1日に足利カントリークラブ、10月5日には佐野クラシックゴルフ倶楽部にて開催いたしました。母校の付近にある広大なゴルフ場にて楽しく絆を深めました。本年も予定していますので皆さん是非ご参加ください。

### 懐かしい母校に改めて登校。「母校を訪ねる会」

卒業して10年目・20年目・30年目となる卒業生を対象として、平成26年9月13日に開催されました。懐かしい先生と懇親を深め、変わらない場所と新しくできた校舎などを訪ねました。



### 同窓会支部紹介

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 佐野支部 支部長 早川郁雄(7期)  | 7. 宇都宮支部 支部長 平野一昭(10期) |
| 2. 安蘇支部 支部長 吉原史典(7期)  | 8. 桐生支部 支部長 川嶋伸行(8期)   |
| 3. 館林支部 支部長 奈良与志則(4期) | 9. 太田支部 支部長 黒田雪久(3期)   |
| 4. 埼玉支部 支部長 大島正勝(6期)  | 10. 足利支部 支部長 吉田 仁(10期) |
| 5. 古河支部 支部長 赤坂幸広(11期) | 11. 栃木支部 支部長 亀田 智(13期) |
| 6. 学園支部 支部長 湯澤輝雄(1期)  |                        |

### 同窓会行事予定 [平成27年→平成28年]

- |       |                    |  |
|-------|--------------------|--|
| 平成27年 | 5月1日(金)            | 第34回 チャリティーゴルフコンペ                        |
|       | 9月19日(土)           | 第22回 母校を訪ねる会<br>(19期・29期・39期)詳細は左記       |
| 平成28年 | 10月4日(日)           | 第35回 チャリティーゴルフコンペ                        |
|       | 1月16日(土)           | 平成28年 同窓会総会<br>第20回 新春のつどい<br>第8回 選考を祝う会 |
|       | [会場]<br>ホテルサンルート佐野 |  |

詳しくは同窓会ホームページ【<http://www.sanichi.info/>】をご覧ください。  
お問い合わせはSakurabitoメールまで [sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp](mailto:sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp)

## Sakurabito School Info.



### デジタル放映部

栃木県のこども総合科学館にて行われた平成26年度栃木高校生文化連盟放送部会第36回放送コンテスト兼第61回NHK杯全国高校生放送コンテスト栃木県予選 制作テレビドラマ部門におきまして、デジタル放映部の「This world. That world.」が最優秀賞(1位)を受賞、9連覇を果たしました。また、吉村清哉(3年4組)が研究発表部門にて優秀賞を受賞し全国大会に出場しました。



### ダンス同好会【作品:ドッベルゲンガー～二重に出歩く者～】

平成26年度栃木県総合体育大会ダンスコンクール兼第27回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)県予選会にて初優勝! 兵庫県神戸市で行われた全国大会では入選することでもできました。これからの飛躍を期待します。



### 剣道部(男子団体)

1月24日に県北体育館で行われた平成26年度栃木県高等学校新人剣道大会兼第24回全国高等学校剣道選抜大会県予選会におきまして、男子団体が優勝しました。平成27年3月27日・28日に愛知県春日井市で開催される第24回全国高校選抜剣道大会への出場が決まりました。



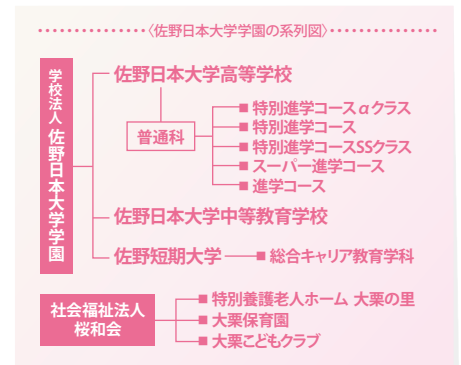
### 中等教育学校 水泳部(前期課程)

中等教育学校前期課程の水泳部。佐野日大の屋内プールで行われた佐野市総合体育大会で男子・女子ともに総合優勝を果たしました。今後の活躍が楽しみです。



### 中等教育学校 和太鼓部

同窓会の行事でもたびたび演奏していただいている和太鼓部が、栃木県代表として茨城県の神栖市文化センターで行われた第38回全国高等学校総合文化祭に出場しました。





# この先の未来へ

地球が誕生してから

僕らは幾度となく

繰り返して生を受け

繰り返し死を迎え

それが地球という命の営みであるように

過去 現在 未来 どんな時も僕らは

二度と戻らないこの時間を必死に生きている

僕の間を戻すことはできない

僕の時間は僕にしか使うことができない

今僕は何をするべきなのだろうか

僕が受け取ったように

今まで繰り返されてきたように

次の世代に何を渡していけるのだろうか

ただ

人を想う気持ちだけは

いつの時代も変わらずに受け継がれていく

だから 僕らの想いも伝えていこう

限りある時間を大切に

この先の未来を見据えて その一歩を踏み出そう

## SANICHI NOSTALGIC PHOTO CLUB

TEXT:Aya Saito PHOTO:Akiko Oya

### Information

## 同窓会からのお願い

「Sakurabito」を読んでいた卒業生の皆様へ。同窓会では同封の振り込み用紙にて「同窓会年会費：3,000円」の納入を受け付けています。この同窓会会報誌も皆様の会費によって発行させていただいております。卒業生の皆様にとって「再会」の場所となる同窓会に今後ともご協力をお願いいたします。



※デザインは変更になる場合があります。

## 編集後記

「Sakurabito Vol.03」はいかがでしたでしょうか？今号から、高等学校と中等教育学校合同の同窓会報としての発行です。

今回は「Sakura Pride」をキーワードに、さくらびとたちが受け継いだものをひもといていきました。先輩から後輩へ、先生から生徒へ、そして新校舎へ。様々なカタチで受け継がれているSakura Prideに「桜の絆」を感じました。みなさんにとってのSakura Prideとは、どのようなものなのでしょうか？

取材中、旧1号棟の解体を目の当たりにしました。寂しさと同時に込み上げてきたものはさくらびととしての誇りでした。

最後に、発行にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

卒業生の働く会社・店舗などの情報を募集しています！**自薦他薦を問わず随時募集中！**  
■受付はコチラ → [sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp](mailto:sakurabito@sanonihon-u-h.ed.jp)

QRコードからもアクセスできます



■同窓生の交流が深まる同窓会公式 **facebook** 「佐野日大同窓会」で検索、アクセス！

※皆様からいただいた卒業生の情報は、Sakurabito編集室にて検討のうえ掲載させていただきます。掲載されない情報もございますことを予めご了承ください。

### 注意事項

本誌掲載の個人情報、同封の振り込み用紙へ記入していただいた個人情報は、当人の同意なく開示することはありません。また、私たち佐野日本大学高等学校・中等教育学校及び同窓会ではその他の勧誘、ハガキの郵送は一切行っておりません。よって、出版社等を名乗る会社等から情報提供または代金振込のハガキが届いた場合は、破棄していただくようお願い致します。※誤って情報を提供してしまった場合、転売などの二次被害の恐れもあります。くれぐれもご注意ください。

**本校卒業生に対する振り込み詐欺(オレオレ詐欺)被害にあわぬよう十分にご注意ください。未遂を含め複数件発生しています。**

Sakurabitoとは、 「桜でつながる、人々」母校のシンボルである「桜」と共に世代を超えた同窓生「人と人」がつながり合う同窓会報として新しく生まれました。桜の花びらと一緒に表現されたつながり合うタイトルロゴは「再会」を表現し、私たちが過ごした母校の「現在・過去・未来」が詰まったコミュニケーション誌です。

